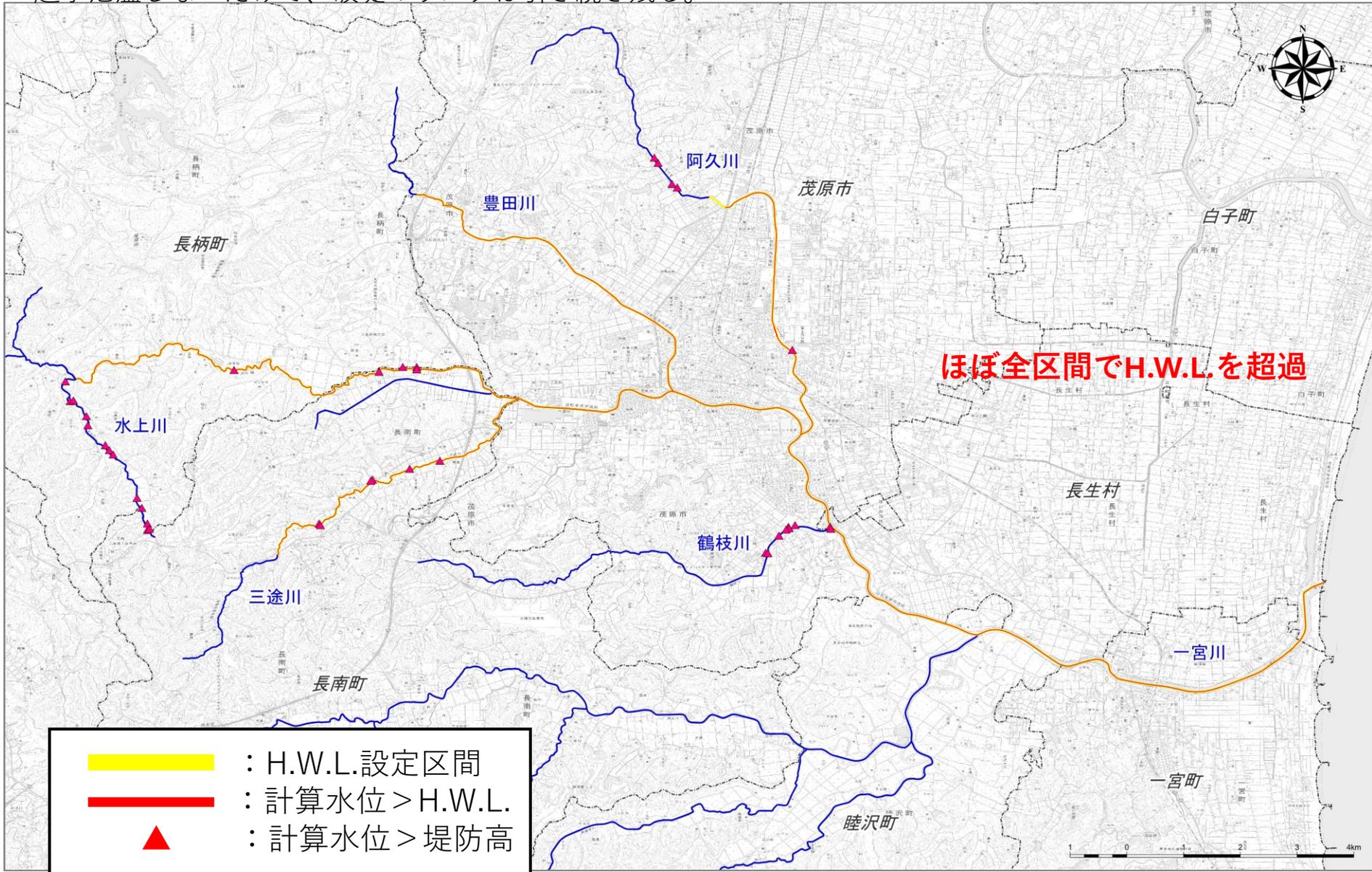


R11時点の残余リスク [R5.9洪水の時の河川水位]

【河川水位がH.W.L.を超過している区間】

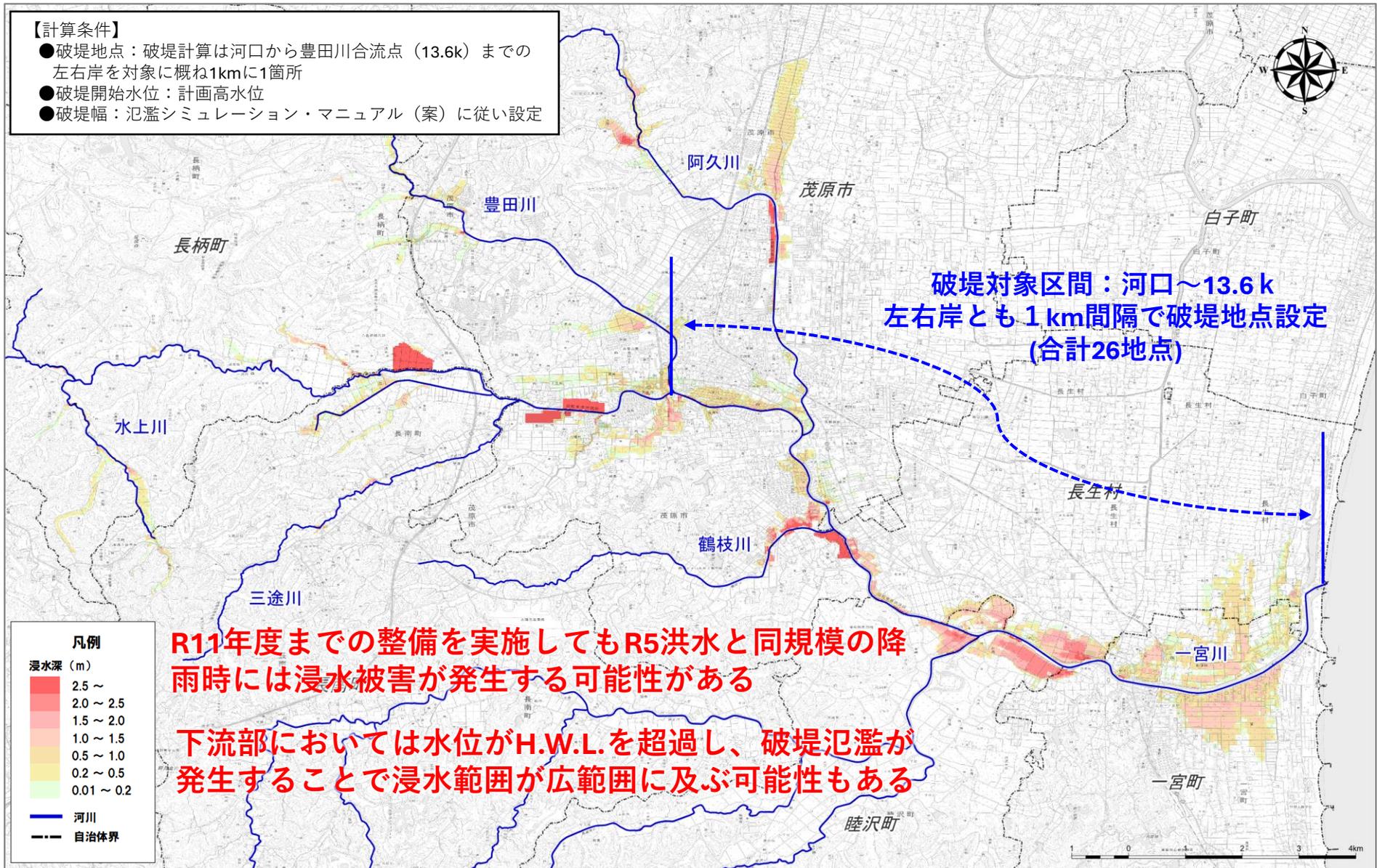
・越水氾濫しないだけで、破堤のリスクは引き続き残る。



R11時点の残余リスク [R5.9洪水の時の河川水位（破堤）]

【破堤した場合の浸水想定図】

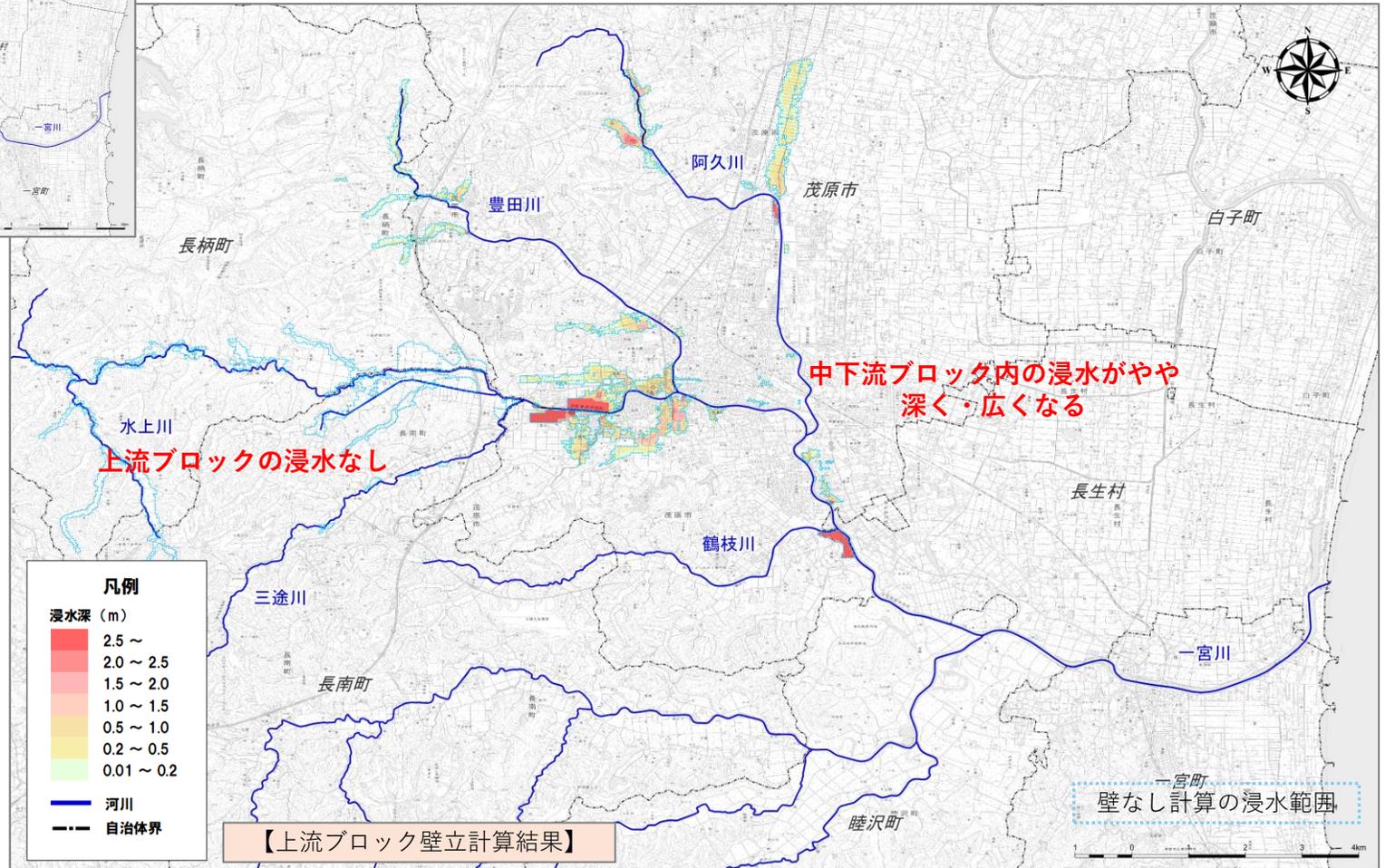
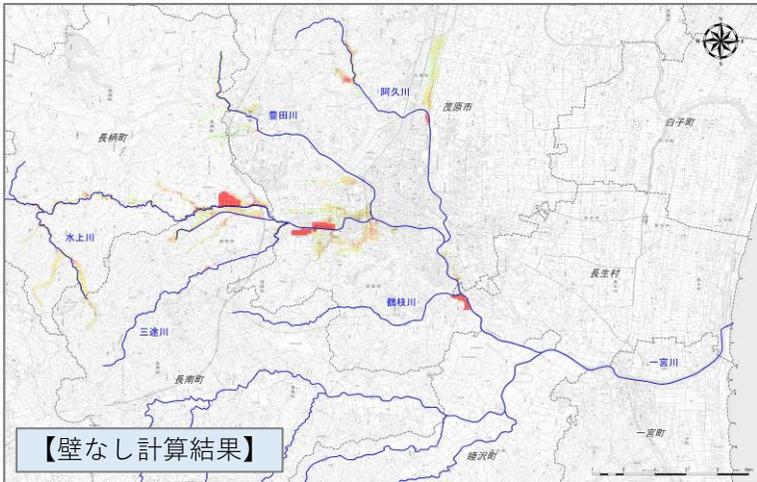
- ・破堤計算は河口から豊田川合流点（13.6k）までの左右岸を対象に、概ね1kmに1箇所とする。



R11時点の残余リスク [R1.10洪水の時の上下流バランス]

【R11時点における氾濫の下流への影響：上流ブロックの河川から氾濫しないような条件（壁立て計算）で計算し、R11河道条件と比較】

- ・ R1.10洪水を対象に上流ブロックを壁立てとした氾濫解析を実施

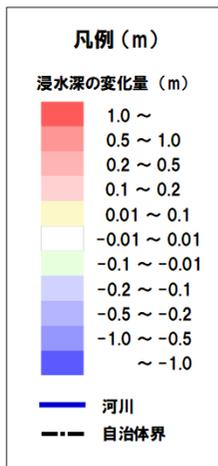
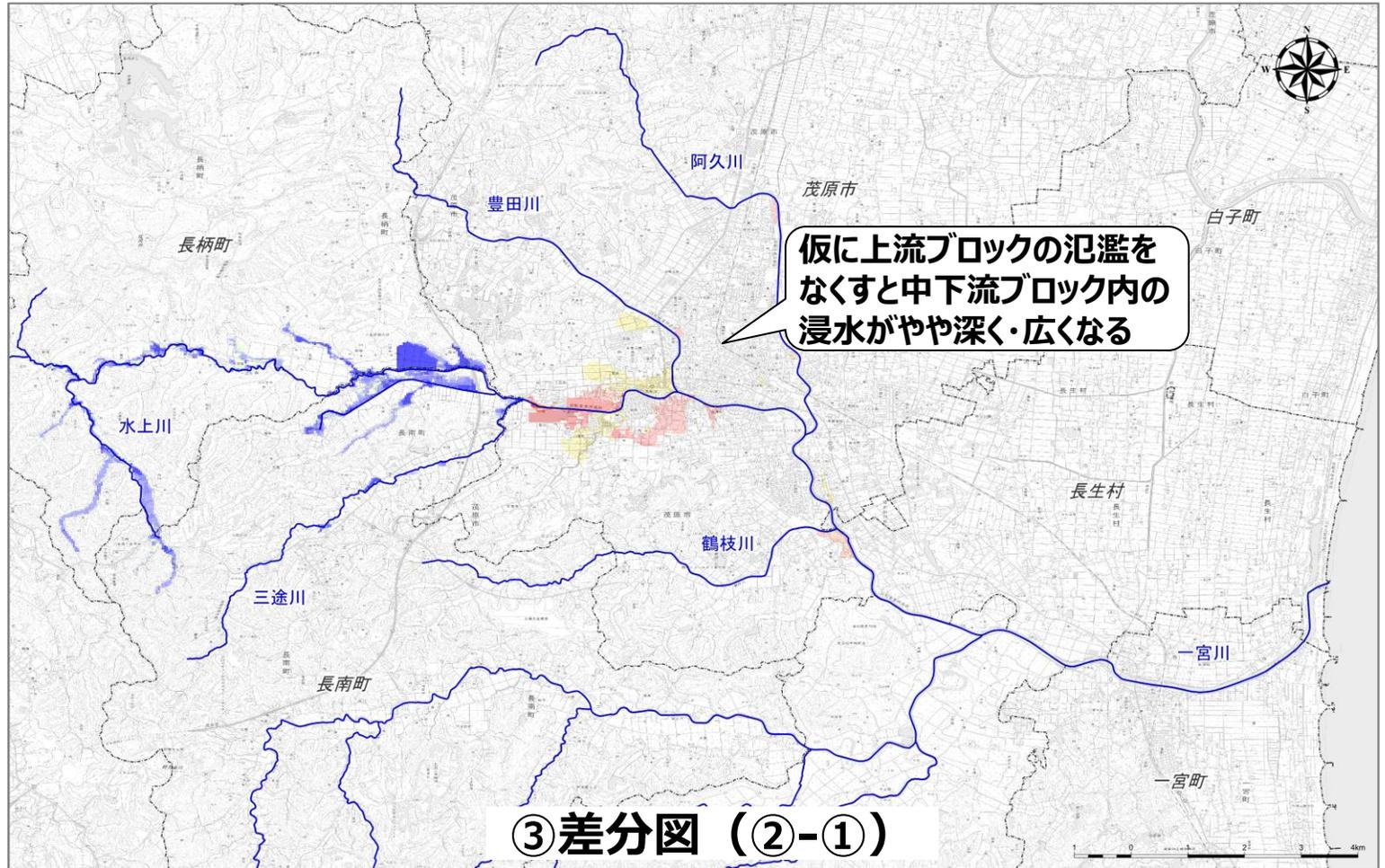
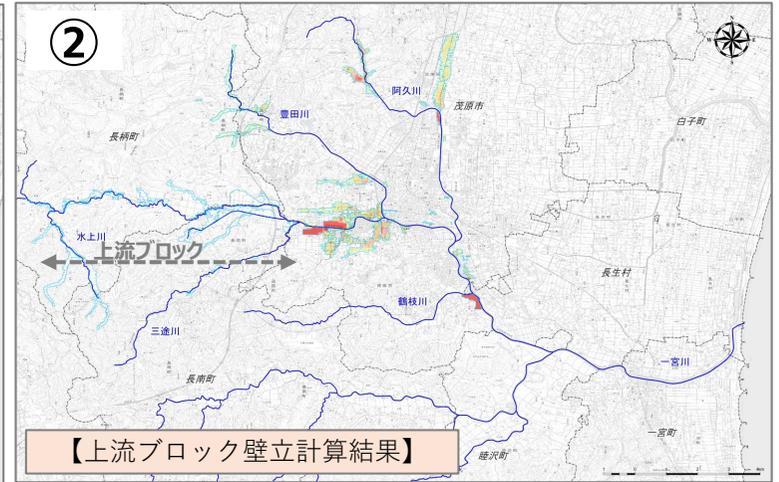
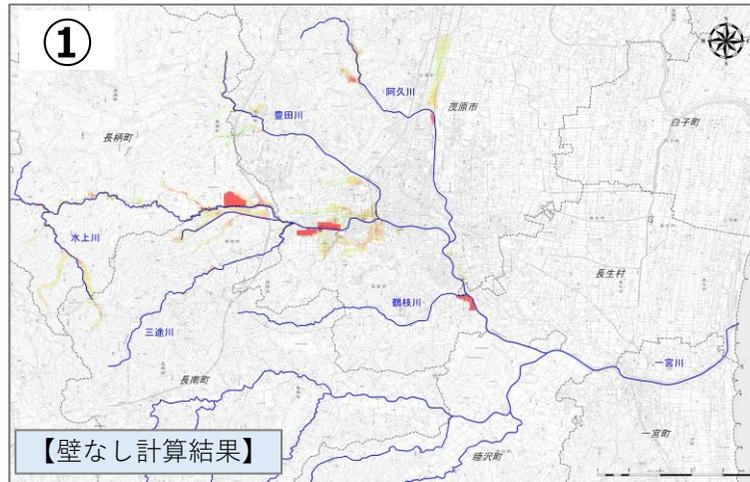


自治体名	浸水面積 (ha)					
	壁なし			壁立て		
	床上	床下	壁なし	床上	床下	壁立て
長南町	44	44	87	0	0	0
長柄町	68	100	168	2	30	31
茂原市	111	215	326	128	227	354
長生村	0	0	0	0	0	0
陸沢町	0	0	0	0	0	0
一宮町	0	0	0	0	0	0
合計	222	359	581	129	256	386

「上流」と「中流・下流」の関係

【R11時点における氾濫の下流への影響：
上流ブロックの河川から氾濫しないような条件（壁立て計算）で計算し、R11河道条件と比較】

- ・ R1.10洪水を対象に上流ブロックを壁立てとした氾濫解析を実施

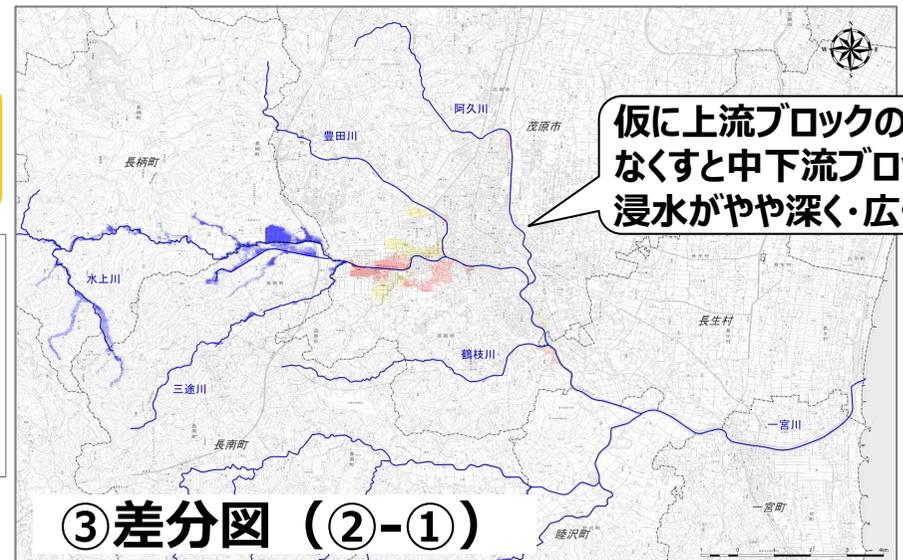
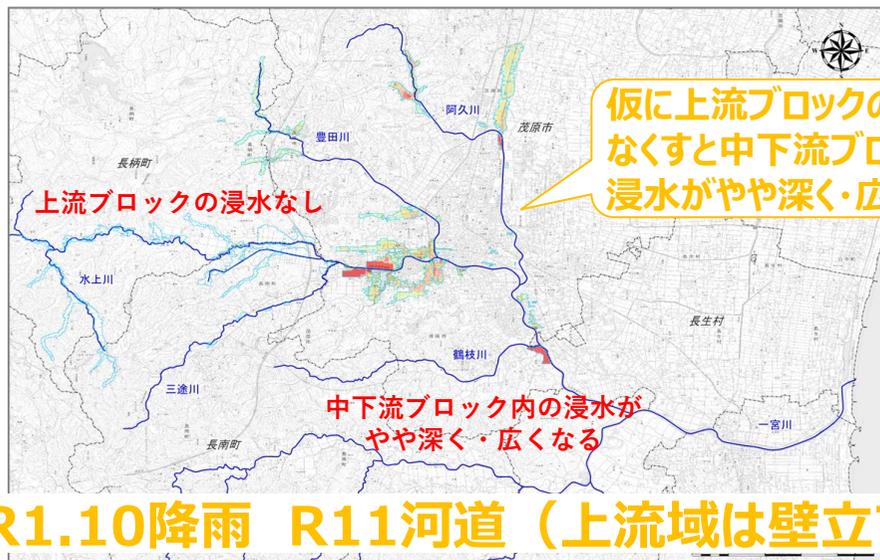
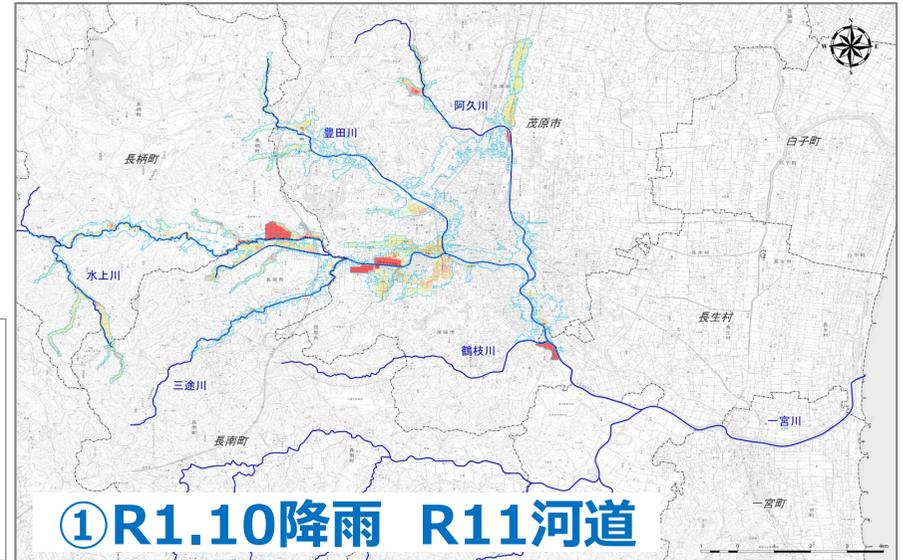
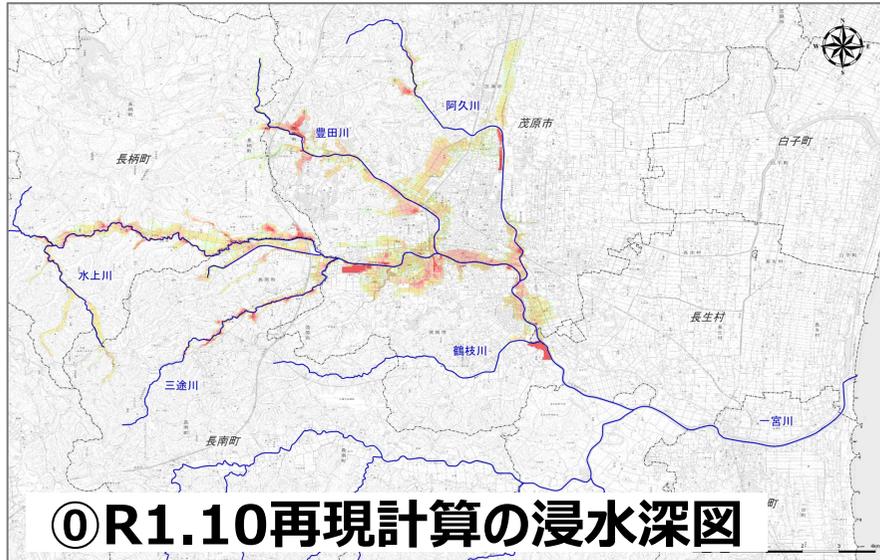


令和元年10月降雨による浸水被害リスク

① 令和元年降雨に対して、現在進めている河川整備により、流域全体で浸水リスクが低減

② ①の補足 上流域で氾濫しない（上流域の貯留なし）場合、中下流域の浸水リスクが増大

⇒ 上流ブロックの浸水域は、中下流の被害増を防ぐ関係性となっている。



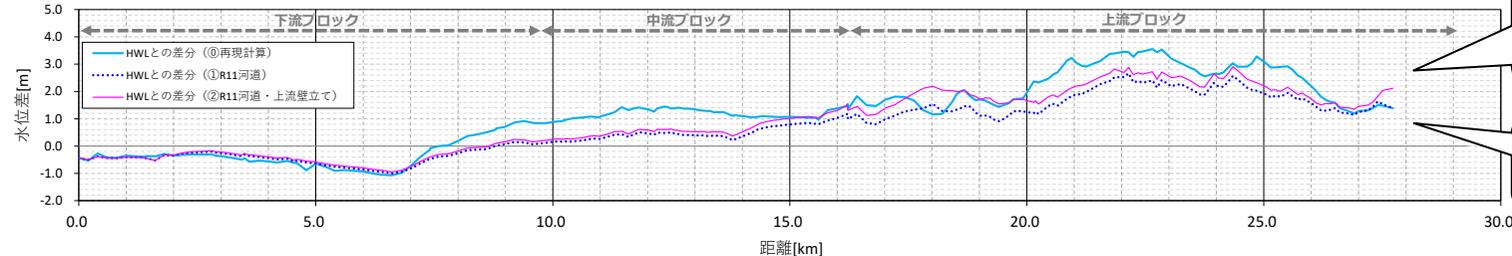
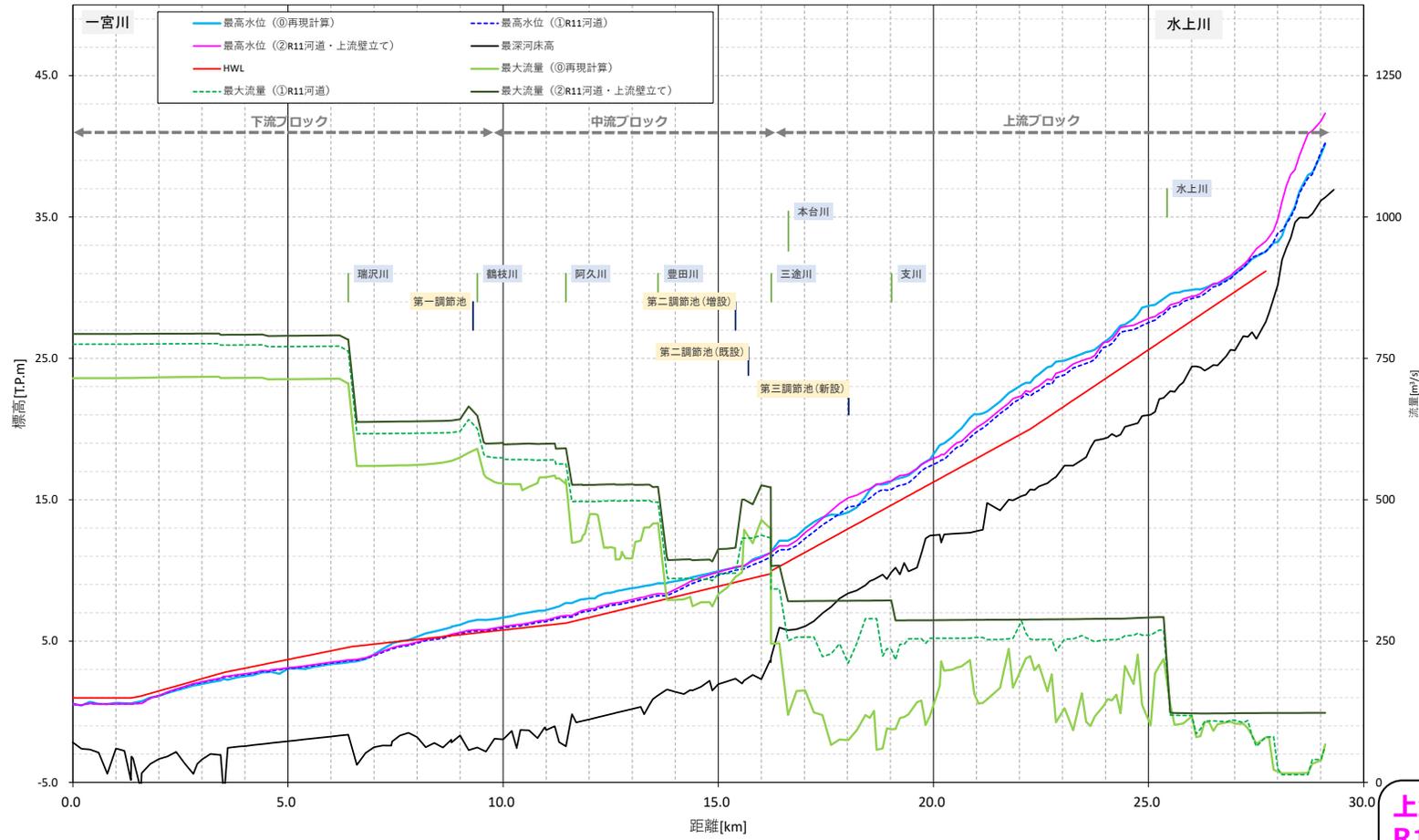
② R1.10降雨 R11河道（上流域は壁立て）

③ 差分図（②-①）

令和元年10月降雨による浸水被害リスク

- ① 令和元年降雨に対して、現在進めている河川整備により、流域全体で浸水リスクが低減
- ② ①の補足 上流域で氾濫しない（上流域の貯留なし）場合、中下流域の浸水リスクが増大
⇒ 上流ブロックの浸水域は、中下流の被害増を防ぐ関係性となっている。

● 上流ブロックと中・下流ブロックは“持ちつ持たれつ”の関係にあり、河川や流域の対策は、流域全体で考える必要がある。



上流区間壁立とすることで、R11河道でも現況河道と比較し一部区間で河道水位が高くなる

R11までの河川改修により、河道水位は低下